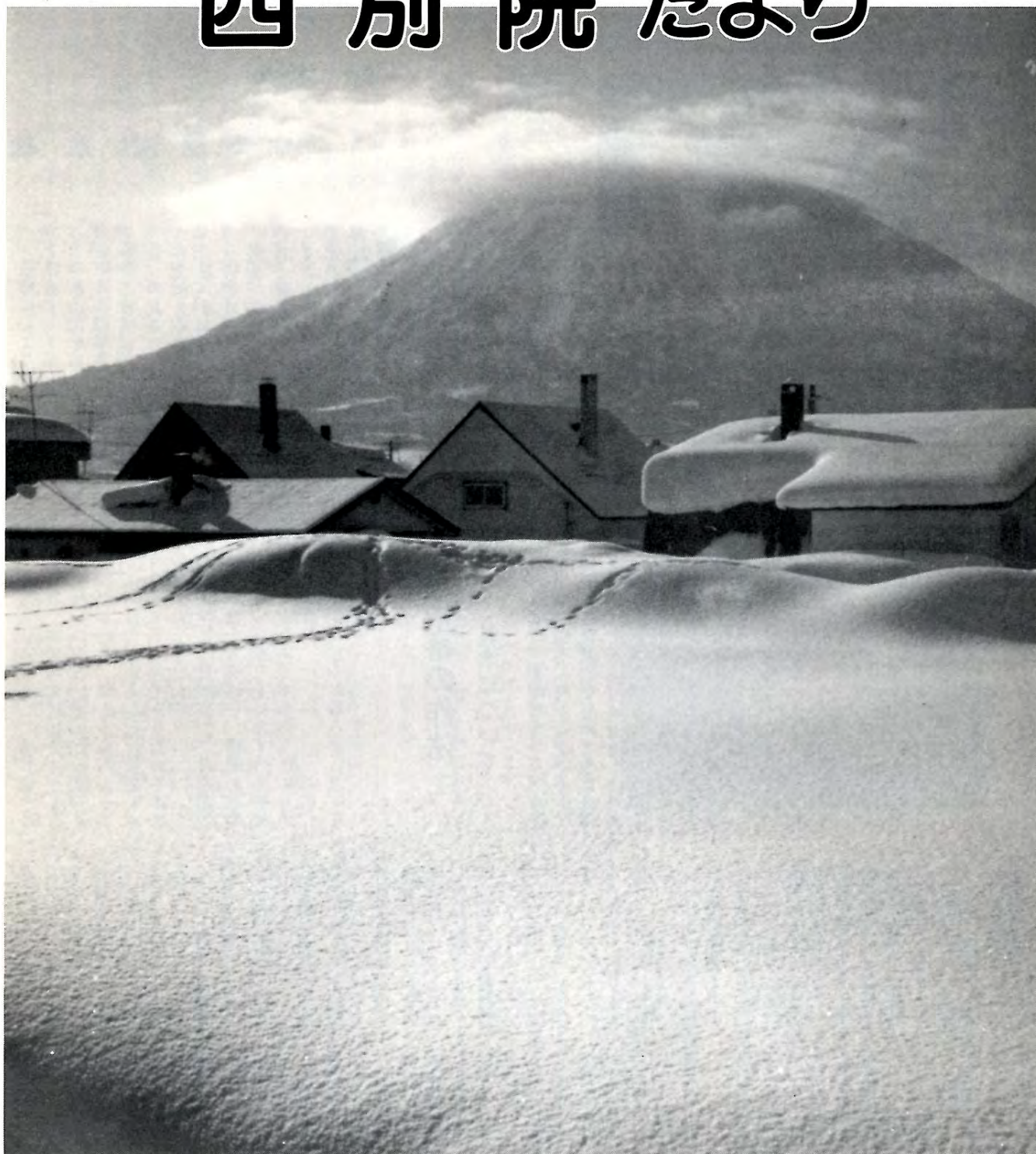


# 西別院だより



雪の羊蹄山

後志組東林寺住職 山階曄雄氏提供

## 賀 正

修正会(元旦会) 1月1日午前6時30分よりおつとめ・法話・  
ご流盃  
月忌は(12月29日より1月5日まで)お休み  
しますのでご了承下さい。



# 新春を迎えて

本願寺小樽別院

輪番 藤本龍珠



春は称名によって  
口初めて聞く  
声は高し無量寿如来  
億土西方遠しと  
一夜東風千里の梅

皆様は心より新春の賀詞を申し上げます。

一九八九年の元旦を迎え、ご本堂阿弥陀如来さまの尊前を莊嚴し、参拝の皆様と共にお正信偈を誦し、声高らかにご和讃を唱和してお念佛を申させて頂くことを有難く思います。

初春は称名によって、口初めて聞く、声高らかに無量寿如来のみ名・南無阿弥陀仏を称えさせて頂くことであります。お浄土は十億のかなたと聞いて遠いところと思っていたが、一夜東風にのつて梅の香りが千里のかなたから吹いて来るように、十億のお浄土から如来さまの願力によって、私の胸を通して口からお念仏となつて流れ出て下さることよと古人はよろこばれたことであります。

阿弥陀経には浄土の如来は「今現在に在りまして説法したもう」とあります。

今年もつらいこと、うれしいこと、花も、鳥も、すべての「存在」、すべての「事柄」の中に、如来さまの「今現在説法」があるのでないでしょうか。この存在、事柄に常に耳を傾け、眼をむけて私に説法しつづけて下さる如来さまのお声を聞かせて頂きましょう。

大無量寿経に「独来独去」「無一随者」とあります。ひとりきり、ひとりさる。一つとして随うものなしと。又「身自当之 無有代者」とあります。自分自身が之に当るものではない。二千数百年の古の言葉が月かわり年うつるも、永遠の真理として語りかけてくれます。

激動する世の中に永劫不変である真理、南無阿弥陀仏を生きる心の依りどころとして一日一日を大切に生きぬき、帰える心のふるさと、お浄土があることに大安心を持たせて頂く年でありたいものであります。

先輩のご苦勞によって建立された御本堂を大切に、聴聞の道場としての役割をはたすべく皆様と手をとりあつて頑張りたいものであります。

## 「仏事の作法」

……お水について……

お仏壇に、茶湯器やコップを使つて水を供えられる方がいます。

ほとんど習慣的なもので「毎日欠かしたことがありません」と、誇らしげにおっしゃるおばあちゃんもいます。「なんで水を供えるの？」と聞くと「仏さんかて、のどが渴きはりまっしやろ」と、このおばあちゃん。

また、ある雑誌の仏事の記事には「仏さまが飲めるように、茶湯器のふたは取つて供えます……」と書かれていました。

どうも、水を供えるのは「仏さまや故人ののどを潤すため」と思つておられるようです。

しかしながら、ご先祖が参られた仏さま（弥陀如来）のお浄土には「八功德水」という「特上」のお水がふんだんにあり、わざわざ

私たちが「水道」の水を差し上げなくても、十分満ち足りておいでなのです。

さらに、こうした「のどの渴きをいやすため」という行為は「追善」の意味あいが濃く、仏さまのお心にそぐわないと申せましょう。

ですから、茶湯器やコップを使つて「仏さまに飲んでいただく」ような水の供え方は、浄土真宗ではいたしません（お茶も同様）。

とはいっても、水そのものがないけないというのではありません。水は私たちにはなくてはならない貴重な自然の恵みです。この尊い水を仏さまのお恵みと味わい、生かされていることへの感謝の気持ちから仏前にお供えするなら、それはりっぱな報恩行でしょう。

そういう思いでお水を供えていただくために、浄土真宗では華瓶（けびょう）という仏具を用います。いうまでもなく、仏事には一定の作法があります。ご飯（お飯）を供えるには仏飯器を用い、けつして茶碗は用いませぬ。同様にお水を供えるには華瓶を用いるというわけです。

徳利型をしたこの華瓶一対に水を入れ、密（しきみ）または青木を挿します（色花は用いない）。これらは密が香木であるからで、つまり香水（こうずい）として供えるのです。仏さまのお恵みを浄らかな香の水にして供えるところに、敬意と感謝の心が込められているといえましょう。

なお、華瓶がなければあえて水を供える必要はありません。  
(末本弘然)

## 小樽別院テレフォン法話

毎日の心のやすらぎを 3分間

電話で聞こう  
3分法話

TEL 27-1616

24時間、いつでもダイヤルして下さい。



# カブスカウト発団

昭和63年7月、小樽第4団カブスカウトが約20年ぶりに再び発足致しました。会員は19名小学校2年生から5年生を対象として活動しています。集会は、毎月第2・第4土曜日、その他におとまり会、1泊2日のキャンプ、報恩講での人形劇、もちつき、奉仕活動などいろいろなプログラムを組み、グループ活動を通じて自然を学び、人間同士の連帯を学び、協力心と責任感を養おうとしています。また、日常の礼拝、讃仏歌や降誕会、

## 仏壇への日々の

### お供えやお給仕は どのようにしますか

浄土真宗では、お仏壇の中には、平素はお仏飯だけをお供えします。お仏飯は、毎朝、炊きたてのご飯を仏飯器に盛って朝食の前にお供えし、さげるのは昼まえにするのが原則で、おさがりとしていただきますが、固くなったり、腐ったりしやすいときは、朝のうちにご供えしてもかまいません。原則としてお供物は餅を主とし、次に菓子、季節の果物の順でお供えすることになっていきます。

なお、浄土真宗では「ご霊膳」といわれる小さな膳や、生臭いもの、酒、お茶などを器についてお供えすることはしません。案外このことが理解されていないようですが、これは定められた莊嚴の

報恩講の行事等を通じて、「ありがとう」と感謝の心、「はい」と素直な心、「ごめんなさい」と反省の心が身につく自然に口にさせるよう、様々な体験をさせ伸び伸びと育てていくよう計っています。

カブ隊のさだめ

- 1、カブスカウトは すなおであります
- 2、カブスカウトは 自分のことを自分でします
- 3、カブスカウトは たがいに助けあいます
- 4、カブスカウトは おさないものをいたわります

様式ですから、そのまま従ってください。

仏前のお花は密だけにかぎらなくともかまいません、四季とりどりの花もお供えしてください。ただし、毒花、とげのある花、悪臭のある花はさしひかえましょう。また、葬式や中陰など悲しみのときは、赤色など派手を色花はさけないものです。なお造花は使いません。

そうして、灯明(ローソク)に火をつけ、線香を適当な長さに折って香炉の中に横にねかせてたきます。浄土真宗では、線香は立てないようにし、本数にきまりはありません。ローソクの火を消すときは、息で吹き消すのではなく、専用のウチワか手の平であおいで消すようにします。とくに和ローソクの場合は、あおぐと火の粉が散りますので火箸で芯を切り消します。

5、カブスカウトは すすんでよいことをします



仏壇が二重扉の場合は、日中は内扉のみを閉じておき、就寝前には、ローソクや線香などの火元を点検し、すべての扉を閉じます。また、よそからいただいたものは、手をつける前に、必ず仏前にお供えする習慣を身につけることが大切です。手を合わせる生活の中でこそ、「ありがとうございました」という感謝の心の営みが身につけてくるからです。



右の図は「平素」の平均的な仏壇のおかざりですが、仏壇の構造によっていくらか違いがみられますので、詳しくはお手次の「住職」にご相談ください。  
 (大阪地区都市開教対策事務所発行) 「法事を営む70章」から

## 謹賀新年

### 本願寺小樽別院

- 輪番 藤本 龍珠
- 副輪番 高柳 広章
- 参勤 浅野 正法
- 齊藤 義隆
- 村上市 隆昌
- 桜井 法道
- 植田 恵真
- 大島 光一
- 鳴本 重作
- 佐藤 友美
- 鷲頭 千津子
- 吉川 孝子
- 武藤 竹雄
- 緑説教所 小樽幼稚園
- 若竹説教所 若竹保育所
- 奥沢説教所 新光保育園
- 新光説教所

御宴会には2階お座敷を御利用下さい。

真心の味・総合仕出店

**いぼや**

色内 1-10-5  
TEL 25-2030

生花を使って花祭壇

**札樽葬祭株**

TEL 34-0444  
ワカマツ 1-17-3

花の店 **カトリア(有)**

TEL 23-6487  
奥沢 1-17-3

土木建築請負

北海道知事許可 般後第225号  
建築事務所登録 後 第129号

カネタ **田中組株**

代表取締役 田中 修次

TEL 33-7575  
稲穂 5-10-18

全葬儀 全霊協 加盟店

**小樽典礼株**

TEL 27-1801  
稲穂 3-4-1



### 小樽別院会館 利用について

本堂のむかつて左わかに五年前に建設された会館はホール、広間等多目的に利用されており、ことに冬季には床暖房がよくきて温かく皆さんに大変な好評であります。平素は仏教婦人会例会、月二回の日曜講座その他、教化活動の会場として使用され喜ばれています。今後門信徒の皆様がこの会館を大いに利用されますようお願いいたします。

使用員加について

○葬儀の場合(通夜とも)

会館大ホール 十万円

三階広間 六万円

冬期暖房代 二万五千元

○法事の場合

各室一万円(四〜五室可能)

冬期暖房代

ホール・広間五千元

小部屋 二千元

おとぎのないときは使用員加は不用。

又他門信徒の場合ご相談にじます。

○法事申込について

(一)、日曜・祝日は法事が多いので早めに(一ヶ月前)申込みのこ

と。但し、葬儀が急に申込みれ

たときは会場変更を了承下さい。

(二)、法名(過去帖)、仏花、ロー

ソク、線香、供物を持参のこと。

(三)、電話で申込まれるときは、何

回忌、時間、おとぎの有無、人

数をお忘れなく。

### 別院年末・年始の 行事と催し

除夜会 十二月三十一日午後三時

除夜の鐘 一月一日午前零時

修正会 一月一日午前六時三十分

常例法座 一月九日〜十一日午後

一時三十分

御正忌報恩講 一月十四日〜十六

別院新年交礼会 一月十六日午後

四時

午後一時三十分

### ◎別院新年交礼会ご案内

一、日時 一月十六日午後四時

一、会場 別院会館ホール

一、会費 二千元

一、切 一月十三日迄 別院へ

電話で申して下さい。

22-〇七四四

### ◎各説教所新年交礼会

○緑説教所

無量講 一月中午後三時

○若竹説教所

彰心会 二月四日(土)午後四時

○奥沢説教所

樹心会 一月一日午後二時

唯信講 一月十日正午

○新光説教所

法友会 一月十三日午後三時

### 1989年 年 回 表 (新年度)

50	33	27	23	17	13	7	3	1
回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	周忌
昭 和 15 年 亡	昭 和 32 年 亡	昭 和 38 年 亡	昭 和 42 年 亡	昭 和 48 年 亡	昭 和 52 年 亡	昭 和 58 年 亡	昭 和 62 年 亡	昭 和 63 年 亡

皆さん、御家庭の仏壇に置かれている過去帳をもう一度確かめて下さい。

### 明日を開く 日曜仏教講座

—親鸞聖人の生き方に学ぶ—

1月15日(元旦休み) 毎月第1・第3日曜日 午前9時30分  
~10時30分

### ご案内

小樽別院 ☎0134-22-0744

お晨朝 毎朝6時30分

### 常例布教

毎月7日-11日 巡回布教使  
13日-16日 //

### 仏教青年会

毎月2,3回開催  
「高校生の部」と「30才以下の社会人の部」があります。

### 仏教婦人会

毎月27日正午

### 仏教壮年会 毎月6日午後6時

### アソカ会 毎月1回

### 日曜学校

毎月最終日曜日、八時半

### カブ・スカウト 毎月第2・4土曜日 2時より

### おつとめ教室

最終土曜日 3時~4時  
(期間4月~11月迄)

### 十九日講

奥沢会館 19日正午より

### 各説教所の案内

- 緑説教所 無量講9日6時より
- 若竹説教所 彰心会7日7時より
- 奥沢説教所 樹心会5日7時より 唯信講10日正午より
- 新光説教所 法友会13日6時より

才市やよみびあてにすむじやないくくあとに残るはしんじんの月 (浅原才市)